

学力向上プラン（令和8年9月～令和9年7月）

校訓

学校教育目標

「北の誇り」～品格ある感じのよい人間の育成～

自ら進んで学び、社会性と高い志をもった生徒の育成

具体的な目標

- 自分で学び方を考え、工夫することができる生徒の割合…80%以上
- 学習内容を見直し、次の学習につなげることができる生徒の割合…80%以上
- 学力調査結果における正答率 全領域で、全国、県、市の平均以上

“ポイントを絞る！！”

伸ばしたい力

○基礎基本的な知識・技能

○読解力

○協働・対話力

○主体性

学習の習慣化と基礎学力の定着のための取組

- わかる授業の実践【授業展開・授業形態の工夫】
 - ・「個別最適な学び」「協働的な学び」を取り入れた教育活動
 - ・思考する場面、言語活動場面がある授業
 - また、粘り強く学習に取り組む姿勢を育む指導場面の設定
 - ・「めあて」「まとめ」が子どもに届く授業の徹底
 - ・板書計画のある授業
 - ・生徒の実態に即した指導法
 - ・ユニバーサルデザイン教育
 - ・タブレットPCの全教科・領域での活用
- 学習規律の確立
 - ・支持的風土（主体的に学習に取り組む態度）
- 生徒の主体性の実態把握 + チーム担任制を活用した支援検討
- 家庭学習の定着
 - ・予習・復習の習慣化
 - ・タブレットPCの持ち帰り
 - ・キュービナの活用
 - ・検定等への推奨
- ICT機器等の活用
 - ・「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進
 - ・使用機器や課題提示の工夫による関心・思考の喚起
 - ・AI学習ドリル（キュービナ）を活用した習熟度に応じた課題提供
- モジュール学習と朝読書の実施
- 読解力向上トレーニング

教育活動の充実

- 毎月の生活アンケートやアセス（Q-U等）による生徒の主体性や学習・生活状況の正確な実態把握と迅速な対応による積極的な生徒理解の実践
- 滑石中スタンダードの共通実践（ワンステップ挨拶・無言清掃・授業前2分間瞑想）
- 毎月の生活アンケートの実施 ○アセスの検証と活用
- 特別支援教育の視点の取り入れ
 - ・通級指導教室の活用と支援体制の充実
 - ・不登校対策の推進
- 要支援生徒への支援体制の確立と実践
- 『キャリアパスポート』の活用
- 生徒会活動や行事における主体的な活動の推進

研修の充実

- 研究授業の実施
- 教科混合学年職員による実態把握及び対策検討の徹底と近隣校・専門機関からの指導支援の活用
- 授業形態・使用機器・課題提示・家庭学習の工夫など多角的な視点からの指導案検討と研究授業の実践
- 評価の充実
 - ・主体的に学習に取り組む態度
 - ・個人内のよい点・進歩等（文章表現）
 - ・知識・技能 思考・判断・表現 の観点項目
- 職員の資質向上のための研修の実施
 - ・不祥事根絶 ・ICT機器活用 ・特別支援教育
 - ・キャリア教育 ・生徒指導 などに関する研修
- 各種学力調査の積極的活用
- 学校評価等の積極的活用
 - ・生徒実態調査 ・学校評価 ・生活アンケートなど

◆学力調査（国・県・市）の結果から（R8年度）〈各教科の分析結果の共通点〉

- ・単語・用語の暗記、公式の適用、計算、選択肢形式の問いなどパターン化された基礎問題では、県・市・全国平均と同等以上、あるいは高い正答率を示している（反復学習や目的が明確な活動に対する成果）。
- ・「自分の考えを根拠や理由とともに論理的な文章で書く問題」で正答率が著しく低下、または無答率が高くなる傾向がある（記述力・言語化の壁）。
- ・表面的な暗記と本質的な用語・概念の理解を欠いたまま暗記に頼っているため、初見の問題、複雑な思考問題、複数条件が重なる複合問題に対応できていない（活用力の不足）。

◆学力状況調査（全国学力調査における質問紙調査結果から抽出）

項 目	R7	R8
自分で学び方を考え、工夫することができる生徒	59.8	84.7
学習内容を見直し、次の学習につなげることができる生徒	64.5	84.7